

2012 年 10 月 23 日

「LT会」会報第 12-18 号(総 117 号)

上海 LT コンサルティンググループ

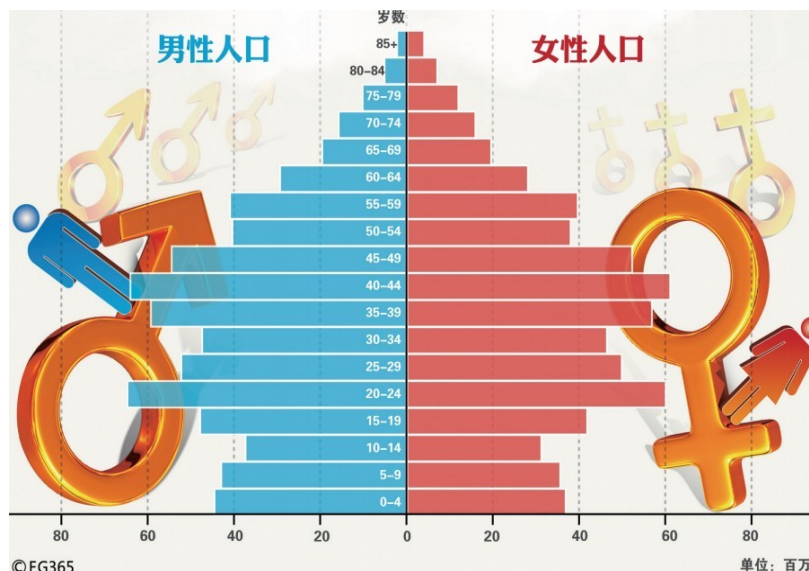
中国の人口ピラミッドを解説

2012 年 10 月 22 日 新華社-瞭望東方週刊

【文・顧宝昌:中国人民大学教授、中国国家人口と計画出生委員会人口専門委員】

中国は地球上で最も人口の多い国として、長期にわたり人口抑制政策を取ってきた。このため、中国人は人口問題に特に敏感だ。例えば数億人が移動する春節の帰省ラッシュや GDP が世界第二位になったとは言えパーヘッドでは僅かになってしまうことなどを見るにつけ、人口が多すぎることを痛感する。このようにこれまでは総人口にばかり目が向いて、人口構成のことはあまり注目されなかった。しかしながら、近年中国の人口問題は、総人口よりも人口構成の変化の方がむしろ重要になっている。

人口構成は職業、教育、民族等様々な角度から分析されるが、最も根本的な要素は年齢と性別であろう。年齢別性別人口構成を最もよく反映しているのが人口ピラミッドである。これにより過去と未来の人口動態を分析できる。



中国 2010 年人口構成ピラミッド

中国では過去 30 年間で、新中国成立後 1950~60 年のベビーブーム期に生まれた人々が最も多く、改革開放初期に大量の若年労働力を提供し、経済発展に貢献した。同時に計画出生政策により出生数を抑制したことにより、当時の中国経済の発展には有利な人口構成をもたらした。だが、人口構成は時代と共に変化する。2010 年に実施した第六次全国人口調査の結果によると、中国の人口構成ピラミッドは明らかに底辺が

縮小しており、20 歳以下の人口が減少していることを示している。わずか十年ほどの間に、中国の青少年人口は全人口の 4 分の 1 から 6 分の 1 にまで著しく減少した。また、60 歳以上の人口は 1.8 億人で全人口の 13.26% を占め、前回の第五次調査の時(2000 年)より 2.93 ポイントも上昇した。

このような人口構成の変化によって、必然的に「人口ボーナス」は徐々に消失していく。近年中国各地でいわれる「民工荒(=人手不足)」とは、正にこの人口構成の変化によるものである。当初人手不足は、東部沿海地域だけの局地的なもの、或いは金融危機に伴う経済変動がもたらした一時的なものと言われていた。新世代の農民工がこれまでの農民工とは違って仕事をえり好みするようになったからだとか、遠方に出稼ぎに行かなくても地元で十分仕事に有りつけるようになったからだとか言う説もあった。いずれの見方にも一理あるが、根本的な原因は、20 年以上に及ぶ出生率の低下による出生人口の減少が労働人口そのものを縮小させたことであろう。労働力不足はまず新規に労働力市場に入ってくる若年労働者数の減少として顕在化する。続いて労働人口の老齢化進行と絶対数の減少という状況が、今後 10～20 年間は必然的に現れるだろう。

最近の学生不足減少も同様に説明がつく。大学入学統一試験の受験者数が年々減少している理由は、海外留学が増えたからだとか、大学を卒業しても就職難のため進学熱が冷めているなどと言われるが、根本的な理由はやはり大学進学年齢の若者の人口そのものが少ないことにある。今年生まれた子供が少なければ、6 年後の小学校入学年齢の子供が少なく、18 年後の大学生の数も、ひいては 20 年後に労働力市場に参入する若者の数も少なくなってしまうのだ。

このような人口構成の変動は早くから予見できていたにも関わらず、問題に対する意識の低さからか、或いは見て見ぬふりをしてきたためか、抜本的な対策が遅れているのが現状だ。数年前には農村部に設置されたばかりの希望小学校が生徒不足のため閉鎖される、学部を拡充して規模拡大を図った大学に学生が集まらない等の悲惨な状況に陥っている。青少年人口の減少についてもっと真剣に議論されていたならば、このような事態は未然に防げたであろう。しかしながら、この傾向は今後も悪化の一途をたどるのである。

最近、定年退職年齢の引き上げについて、人力資源と社会保障部(日本の厚生労働省に相当)がこれを必然の傾向と表明したことが世論の注目を集めた。中国の年齢別人口構成の急速な変化を踏まえれば、早晩に実施せざるを得ないことは明らかである。社会の発展に伴い高等教育を受ける者が増えれば就学年数が長くなり、労働開始時期が遅くなる。また、人々の寿命がますます長くなり、高齢化が進んでいくにも関わらず、退職年齢がこれまでと変わらなければ、相対的に一生の内の就業期間が短くなり、退職後の時間が長くなる。もちろん個々のケースにより状況も異なり、徐々に適応段階を踏むことは必要だが、現状の人口構成の変化の傾向から見て、大きな流れとしては新時代の到来に適応していくことは避けられまい。

人口構成の変動と人口の流動と移動には大きな関係がある。第六次全国人口調査によると、中国の流動人口はすでに 2.6 億人に達し、四川省を例にあげると、2010 年の常住人口は 8000 万人で、10 年前より 300 万人減少したが、戸籍上の登録人口は 9000 万人だった。これは出生率の低下と死亡率の上昇が原因ではなく、大量の労働力人口の流出によるものだ。類似の状況は貴州省などでもみられ、逆に広東省などでは 2000 年から 2010 年の 10 年間に、常住人口は 20% 以上も増加した。



また、高齢者人口の割合でいうと、重慶では65歳以上の人口が全体の11%を占め、上海のそれより10%以上も高い。これは重慶の若年労働力人口が大量に流出した結果、高齢者の割合が高くなったものとみられる。反対に上海の65歳以上の高齢者人口は10年前に比べて1%以上も減少した。上海は1993年以来20年間、戸籍上の人口は自然に減少しているにも関わらず、高齢者のわりあいが減っているのは、上海の出生人口が増加したからではなく、外部から大量の若年人口流入してきたことによるのだ。

「LT コメント」

中国では人口問題は中国の基本国策とされる「計画出産政策」と抵触する場合があります、正面から議論されることはほとんどない。しかし、最近中国でもますます少子高齢化問題が深刻化する中、専門家達から多くの議論がされるようになってきた。

中国で労働力の雇用を計画する際に、また、中国の諸問題を議論する際に、ご参考にしていただければ幸いです。

以上